

主催者代表挨拶

中川 正春 文部科学副大臣
[代読：木曾 功 国際統括官]

本日はお忙しい中、第7回国際教育協力日本フォーラムに、大勢の皆様にお集まりいただきましたことに対し、心よりお礼申し上げます。主催者である文部科学省を代表し、一言御挨拶を申し上げます。

本フォーラムは、国際社会が一致団結して取り組んでいる「万人のための教育(EFA)」実現に向け、開発途上国の自立的な教育開発の支援を目的として開催するものであります。国際社会によるEFAの取組みにより、開発途上国では初等教育就学数の着実な上昇が見られています。その一方で、教育の質の向上、男女差、地域差など格差の改善、識字教育や幼児教育の推進など、残された課題もまだまだ多いとされています。また、児童の急増に対応する教員の確保、児童の卒業後の受け皿をどうするかなどの新たな課題も浮かんできています。さらに、開発途上国の中には急速な経済成長を遂げる国も出てきているなど、これまでと異なる教育開発のニーズが生まれてきているのも事実です。

そこで、EFAの目標達成期限とされる2015年まで残り5年となる今、EFAの残された課題に加え、2015年以降も見据えた議論を始めてはどうだろうか、というのが今回のフォーラムの意図するところです。

本日は、松浦晃一郎(まつうら・こういちろう)前ユネスコ事務局長を特別講演者に、そして、フェイ・キング・チャン元ジンバブエ国教育スポーツ文化大臣を基調講演者にお迎えしました。松浦前事務局長におかれては、皆様よく御存知のように、EFAを主導する立場の国連機関であるユネスコのトップとして10年間その陣頭指揮にあたられました。フェイ・キング・チャン元大臣におかれては、ジンバブエで教育大臣などを歴任された後、ユニセフやユネスコで活躍されました。お2人の豊富な御経験から本日は貴重なお話が伺えると期待しております。

さらに、御両名に加え、国内外から10名のパネリストの方々にお集まりいただいております。午後のセッションにおいて、先ほど申し上げた今回のフォーラムの着目点について活発な御議論がいただけるものと期待しております。

文部科学省では、国費留学生の受入れ、大学などの知見を活用し教育協力モデルを作る「国際協カイニシアティブ」の実施、国公立学校の現職教員の青年海外協力隊への派遣、ユネスコを通じた識字教育や寺子屋運動の支援など、開発途上国の教育開発支援に積極的に取り組んでおります。今後とも引き続き、我が国の経験、知識と人材を活かした国際教育協力を推進して参りたいと考えております。

最後に、本フォーラムの実施にあたり御尽力いただいた関係者の皆様に感謝の意を表しますとともに、この機会が、開発途上国の自立的な教育開発とそれを支援する協力に関して、有意義な議論の場となりますことを祈念し、私からの挨拶とさせていただきます。